

多様性が大切な
今だから

いま、男女の別や年齢、障がいの有無などを問わず
多様な人々の存在を認める社会の実現が求められています。
しかし、人生の節目である結婚では、女性が男性に合わせて
改姓することが多く、仕事や日常生活で不便を感じている
人もいます。

結婚後も「旧姓」の通称使用をすすめることで、こうした
問題を解消し、女性がもっと輝く社会を実現できるよう、
あなたの力を貸してください。

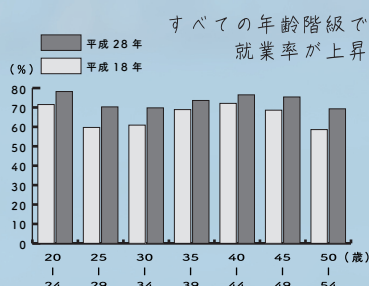
旧姓も使うやさしい社会へ

「結婚後の旧姓使用をすすめる会」ホームページで
令和5年統一地方選挙立候補予定者アンケート結果公開中



<https://kyusei.me>

高まる女性の就業率



出典 平成29年版男女共同参画白書 働く女性の活躍の現状と課題

こうした国民の声を受けて、
私たち「結婚後の旧姓使用をす
すすめる会」は、結婚してから
旧姓の使用を担保する法律制定
を求めています。

令和4年(2021)3月に
内閣府が公表した世論調査で
は、夫婦同姓を前提に「旧姓の
通称使用の法制度を設ける」と
答えた人が最も多い42%超を
占めています。

結婚後も「旧姓」を通称使用
できる職場は増えていますが、
給与明細書だけは別だったり、
そもそも通称使用を認めてい
ない会社もあります。

女性の社会進出が進み、今で
は25〜44歳の女性の約8割
が仕事に就いています。しか
し、結婚による「改姓」がキ
ャリア形成の上で大きな壁とな
っているケースが少なくありません。

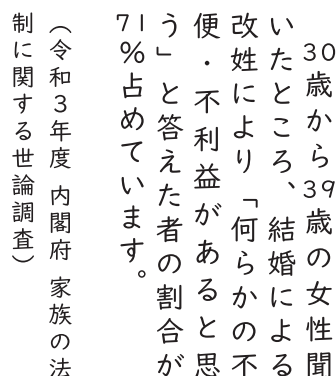
夫婦別姓より
旧姓使用が多数

令和3年度内閣府実施「家族に関する世論調査」

政府世論調査を読み解く



<https://kyusei.me>

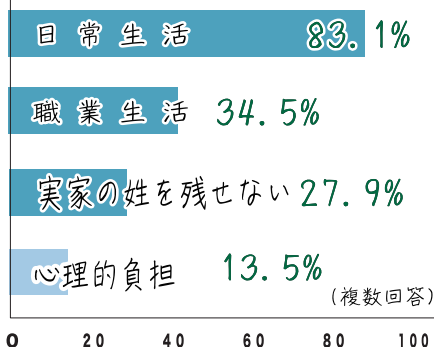


（令和３年度内閣府家族の法制に関する世論調査）

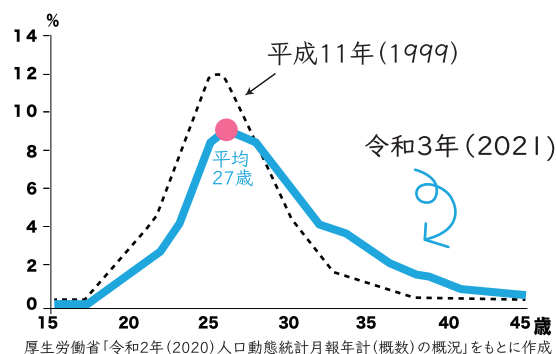
初婚年齢の上昇

キャリア女性の初婚増

人口動態統計によると、令和3年の女性の初婚年齢のピークは27歳と上昇しています。それ以降の年齢において初婚数は毎年緩やかな増加を続けており、平成11年と比較すると差は歴然です。このように、社会生活でキャリアを形成した女性の結婚が増えています。



不便・不利益があると
思うものは？



厚生労働省「令和2年(2020)人口動態統計月報年計(概数)の概況」をもとに作成

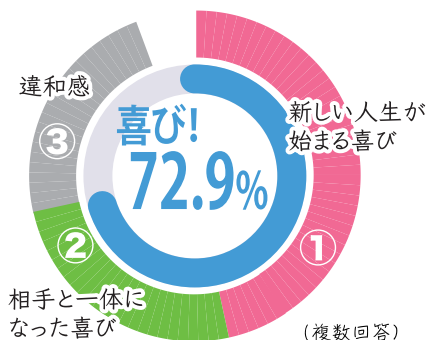
内閣府令和3年度
家族の法制に関する世
論調査によると、改姓
にどのような感じを持
つと思うかという設問
に対して、①「名字・
姓が変わったことで、
新たな人生が始まるよ
うな喜びを感じると思
う」が54・1%、②「
相手と一体となった
ような喜びを感じる」と
思う「が39・7%と
肯定的な回答が③「名
字・姓が変わったこと
に違和感を持つと思
う」の25・6%を大

結婚による改姓に「喜び」72.9%

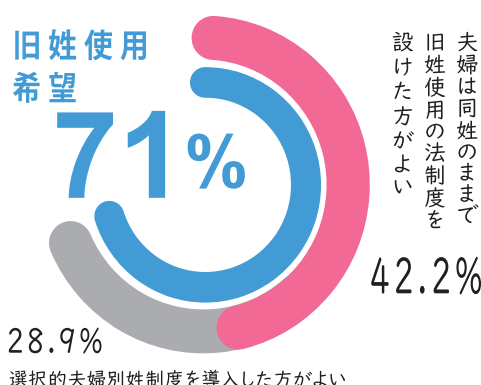
家庭も仕事も大切だから旧姓使用

令和3年内閣府調査では71.1%（旧姓使用と選択的夫婦別姓制度導入希望者の合計）が旧姓使用を望んでおり、「夫婦は必ず同じ姓を名乗るべき」の27%の2.6倍となっている。改姓に伴う不便・不利益が顕在化した現在、旧姓の使用を認める声が広がっていると考えられるでしょう。

多くの国民が旧姓の使用を望んでいます



きく上まっています。また、「相手と一体となったような喜びを感じると思う」を挙げた割合は女性の18.30歳代で高くなっています。



選択的夫婦別姓制度を導入した方がよい

旧姓使用でもっと暮らしやすく、働きやすく！

「私たちの提言」

- 1 すみやかに結婚後の旧姓使用を可能とする法律の制定を求めます
- 2 法令に基づく各種名義変更において旧姓使用を求めます
- 3 政府は、国民ならび企業に対し、結婚後の旧姓使用について周知・普及を行うよう求めます

旧姓使用を
すすめる会
kyusei.me